

| | |
|------------------|---|
| Title | 編輯後記 |
| Sub Title | |
| Author | 法学研究編集委員会(Hōgaku kenkyū henshū iinkai) |
| Publisher | 慶應義塾大学法学研究会 |
| Publication year | 1969 |
| Jtitle | 法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.42, No.3 (1969. 3) ,p.239- 239 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 小池・今泉教授退職記念論文集 |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19690315-0239 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編輯後記

慶應義塾が愈々定年退職制度を実施するに至つて、法学部はその最初に該当する教授として、本年三月小池、今泉の両先生を送り出すことになつた。このことが明らかになつたとき、法学研究編集委員会として、われわれの念頭にまず浮んだことは、ながくわが法学部民法陣の重鎮であり、幾多の後継者を育成せられた両先生に対して何を以て酬むべきかということであつた。この心ばせが、偶々両先生に学恩をうけた法律学科のスタッフの中から、その定年退職を惜別し、謝恩の意を表しようという声の上つたのと呼応して、法学研究特輯号の形で記念論文集を生み出すことになつたのである。

この記念論文集発刊の企画がたてられると殆んど時を同じくして、塾にも学園紛争が起り、この紛争のさなかに編輯が進められたため、原稿執筆も痛く危ぶまれたのであつたが、いまここにこの上梓を見るに至つたのは、偏に両先生の学恩に酬いようとする後進の熱意精進の賜であるといわねばならない。とりわけ、塾民法陣の中堅田中実教授は、当初から本企画推進の中心となつて、われわれと執筆者との間に立たれ、原稿収集、連絡整理に当られ、本論文集完成のために尽瘁されたことは、編集委員会一同の深謝するところである。田中教授の努力なくして本論文集は出来なかつたといつても過言ではないであらう。ただ残念なことは、はじめ論文執筆を快諾

されながら、研究執筆に傾注出来る夏から秋まで、学園紛争のために貴重な時間を奪われて、締切日まで原稿が間に合わなかつた若干の同僚が出たことである。

それにも拘らず、このように短期間に本記念論文集の出版が実現したのは、田中教授の献身的努力もさることながら、慶應通信の關係諸氏、殊に今井壯、石沢征子の両氏が出版に当り誠心誠意奔走されたことによるのである。それはまた、小池先生が法学研究会の代表者として、法学研究の編輯発行に数十年間寄与されたことに對する最後の餞けとして、関係者すべてが協力を惜しまなかつたからにはかならない。編集委員会はここに感謝の念を新たに次第である。

幸い、両先生は未だ頗る御健康であり、退職せられてからも引続き塾法学部のために御協力下さることもあるから、我々法学研究会は、この論文集を単に謝恩の記念として献げるだけでなく、今後とも両先生と我々との間をつなぐ絆として、「法学研究」発展のための一助たらんことを期するものである。この意味において、本論文集は、ささやかながら、両先生に對する法学部あげての敬愛謝恩の学問的象徴であると両先生にも喜んで頂けるものと信ずる。

最後に、小池、今泉両先生が愈々御健勝に御活躍せられることを祈念する次第である。

昭和四十四年二月二十日

法学研究編集委員会